



一般社団法人 奈良教育大学同窓会竹柏会会報

まほろば

第 3 4 号



目次

○会長挨拶	2
○学長挨拶	3
○令和2年度会務報告・会計決算報告	4
○令和2年度特別会計報告・監査報告	5
○令和3年度活動方針・役員紹介	6
○支会だより	7
○同窓会創設130周年記念事業 「クラブハウス建設基金」中間報告	8
○同窓会だより	10
○奈良教育大学と奈良女子大学との法人統合について	11
○学生会員の声・キャンパスだより 事務局だより・編集後記	12

「平城宮跡から」

山口 加代美 (S49卒)

春ののどかな一日、若草山や大仏殿を見渡せる平城宮跡の真ん中にイーゼルを立てて描きました。

はるか奈良時代の歴史の場面を思い巡らせながら、又、近鉄電車が通ると現実に戻り、そのギャップを楽しみながら作品に向かいました。

いにしへの風景と春の暖かさを感じていただけたら幸いです。

卒業して半世紀近く経ちますが、奈良の風景は、いつも落ち着いた気持ちにさせてくれます。

竹柏会の堅実な歩み

会長 中 川 克 巳



令和2年は本会が創設されて130周年という節目の年であり、オリンピック・パラリンピックの開催年として国を挙げての希望と期待の持てる大切な年の出発でした。そんな矢先、新型コロナウイルス

スの感染が発生し急速に拡大、世界中に蔓延し、誰もが経験したことのない恐怖の事態が発生しました。学校は休校となり、命か経済かを問われる日々が続きました。本会においてもすべての行事の中止や延期を余儀なくされ、活動を停止せざるをえない自粛の一年でありました。そんな中、大学当局と何回も記念事業について話し合いました。10月初めに大学側から今までの話し合いを総括した検討結果が提示されるとともにクラブハウスの一部の建設に着手するとの報告がありました。これは本会の希望に沿ったものであり、今後の発展の契機となる喜ばしいものでした。

そして、会議の自粛と三密の回避が叫ばれている時期でしたが、万全を期して正会員総会を開催し経過説明と今後の取り組みを報告しました。

クラブハウス建設基金の募集にご協力をいただいた会員の皆様方には尊い篤志を寄せていただきました。ご協力に対して厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。コロナ感染はおさまる気配もなく拡大の一途をたどる中でしたが年内に贈呈式を開催したいという思いもありました。日程について理事会で検討し、熟慮を重ね規模を縮小して万全なコロナ対策を施し開催することに決定し12月20日に実施しました。そこで寄付金と篤志寄付者の銘板を大学に贈呈させていただきました。大学側にも大変喜んでいただき、学長から感謝の言葉をいただきました。記念事業の節目となる大切な行事であったと思います。これで130周年記念事業としての形は整ったと思っていますが、理事会ではこの気運を活かすためにも基金募集活

動を令和4年3月末まで続けることが決定されました。会員の友人・知人・関係する企業や団体にも協力をお願いすることにいたしました。厚かましいお願いですがお力添えのほどお願いします。

令和2年度を振り返りますと、コロナ禍で事業は縮小されましたが相応の成果を収められたと思っています。偏に会員のご協力の賜物と感謝いたしております。

令和3年度は活動の重点目標として、支会活動の活性化を考えております。会員の増強を図り、支会の充実に向けて本会の支援が必要であり、可能な範囲で協力し、竹柏会発展のために努力し頑張っていくと思っています。

コロナ禍で暗いニュースばかりですが、5月の新聞紙上で嬉しいニュースが報じられました。奈良教育大学と奈良女子大学との法人統合により「国立大学法人奈良国立大学機構」の設立については、以前から報じられていましたが、この度やや具体的な内容が発表されました。関係者の提携は勿論ですが、学生間の交流と互いの大学での受講が可能になり、学生にとっては学びの場が拡大されました。将来において成果が期待できますことは先輩にとっても大きな喜びであります。近い将来、奈良教育大学の竹柏会と奈良女子大学の佐保会との交流も実現するものと信じています。

一般社団法人として発足以来、会員の志気の高揚を感じることもありますし、記念事業活動によって同窓会への思いも構築されつつあるようにも感じられ、強く感謝の念を抱いております。

コロナが収束し正常に戻れば理事会をはじめ正会員総会で竹柏会の発展について議論し、期待に応えられるよう頑張りたいと考えています。同窓会の活動目標であります会員相互の親睦と研修につきましても、年代を問わず場や機会の設定を模索し後輩への支援についても先輩として貢献していきたいと思っています。

以上、令和2年度の取り組みの内容を報告し、今後のご協力をお願いし挨拶と致します。

同窓会の文化

学長 加藤 久雄



新型コロナウイルス感染症の拡大は、大学生活を大きく変えました。それは、「感染をくい止め、ひとりでも多くの命を救い、我々の日常を取りもどすため」であります。私たちは、何度でもこの基

礎基本の目標に立ちもどり、「何のために何をしているか」を考え行動を決定しなければなりません。大学は、毎週月曜日定例、時には臨時で、学長を委員長とする緊急事態等対策本部会議を開催し、先手先手で、感染状況や医療体制状況に応じた対応や注意喚起を行ってきました。また、昼食時の校内放送や教室や食堂の見回り、全学生と全教職員を受講対象者としたオンデマンドでの新型コロナウイルス感染症対策研修会も実施してきました。

本学学生の感染者は、昨年7月の1名の後、5月末まで計5名です。学生宿舎や課外活動でのクラスターの発生もなく、大変低い数値を維持しています。新型コロナウイルスに関する正しい理解に基づく様々な場面での「対応」「協力」を、学内、学外で学生達が実行してくれているおかげであり、頼もしい限りです。

現在、学生達は非対面の授業や課外活動の延期や中止に対応しながら、大学での自らの学びを全うしようとしています。学生達には、非対面の授業のために用いるパソコンやオンラインコミュニケーションツールに関するスキルが新たに求められました。大学は、ホームページのトップに「新型コロナウイルスへの対応」と命名したバナーをいち早く昨年3月に設け、そこを見れば、大学のコロナ対応に関する全ての情報がわかるようにしました。貸し出し用のノートパソコンも用意しました。お金の面、メンタルの面、様々な場面での支援と相談に取り組んできました。これらの連絡や遠隔授業のスキル向上のための取組そのものを遠隔でしなければならないというジレンマを乗り越えながらのことでした。

1年が過ぎてもなかなか出口が見えてきませ

ん。我々は人類の存亡そのものを揺るがしかねない状況下に立たされているのかもしれませんが。我々は森から平地に出たことで猿の仲間から袂を分かち人類を形成しました。平地は直立歩行を促し、自由になった前足は実に器用な手というツールに進化し道具を駆使することにつながっていきました。そして、その過程で、人類は、顔を見て車座になって食べ物を分かち合って食事をする文化を形成し、「協力し合う。助け合う。」という文化を獲得しました。そして、人間は、意思疎通するための道具である言葉を手に入れています。人類が人類である所以がここに 있습니다。

大家族から核家族、そしてひとりの生活と孤独な生涯、個食の習慣、コミュニケーションの貧困という現代社会が抱える問題は、森から出て人類を形成した人間がその進化の過程を逆向きに戻りはじめた兆しだという指摘もなされています。コロナ禍によって生まれた、黙食、距離を保つての生活、マスクを通しての会話、リアルに表情が見えないコミュニケーションなどのニューノーマルが、その後戻りと表面上は似ていても、その本質は異なるものであることに留意しなければなりません。

何のためのニューノーマルであるのか、人間が森を出た時から築きあげてきた価値観や文化、特に「協力し合う。助け合う。」という文化を見失うことはあってはならないことであり、その文化こそが、コロナ禍から抜け出す唯一の手段なのかもしれません。同窓会に寄贈していただいた桜が、コロナ禍など存在しないかのごとく、この春、見事に花を咲かせました。特に、なかなか根付かなかった事務棟前の「ウジョウシダレ」「ベニシダレ」「ヤエベニシダレ」の三本三種のしだれ桜は、初めてこの春三本揃って花をつけました。その本当に爽やかな幼木の三種三様のそろい咲きは、同窓会が「みんなで協力し合い助け合う」という文化を育む母体となっていることや、その大切さをあらためて思いおこさせてくれました。同窓会と大学がこれからも協力し手を取り合って、同窓会と本学、そして教育の発展に取り組んでいきたいと考えております。

令和2年度 会 務 報 告

4月2日 大学入学式(コロナ禍で中止)
 4月8日 第1回理事会
 午後監査を受ける
 ※コロナ禍のため5月7日迄同窓会事務所を閉鎖
 ※さらに5月末日まで継続
 4月15日 まほろば徳・得講座中止(全4回)
 4月開催予定の正会員総会中止
 5月15日 大学との話し合い
 (学生支援について)
 5月17日 令和2年度総会中止
 6月3日 第1回理事連絡協議会
 6月12日 まほろば33号編集会議①
 6月22日 まほろば33号編集会議②
 7月11日 第2回理事会
 7月17日 まほろば33号編集会議③
 7月27日 まほろば33号編集会議④
 7月29日 まほろば33号編集会議⑤
 8月5日 まほろば33号編集会議⑥

8月7日 第2回理事連絡協議会
 未来を育む基金(大学)へ寄付
 8月11日 事務所閉鎖8月20日迄
 8月30日 まほろば第33号発行
 9月2日 大学との話し合い
 (130周年事業について)
 9月15日 第3回理事連絡協議会
 9月30日 大学中間卒業式 卒業生 5名
 出席 1名
 支会長会・公開文化講演会中止
 10月13日 第3回理事会
 上半期の会計・会務報告
 10月26日 大学の財務状況の説明を受ける
 10月31日 第1回正会員総会 66名
 出席 43名
 委任状 23名
 上半期の会計・会務報告
 130周年記念事業の報告

11月16日 第4回理事連絡協議会
 贈呈式的具体化等
 12月9日 第5回理事連絡協議会
 贈呈式当日の役割分担等
 12月20日 同窓会創設130周年記念事業
 クラブハウス建設基金贈呈式
 於: ホテル日航奈良 55名
 1月25日 第4回理事会
 クラブハウス建設基金贈呈式
 の総括及び今後の課題 等
 2月17日 第6回理事連絡協議会
 3月5日 第7回理事連絡協議会
 3月25日 令和2年度
 卒業証書及び大学院学位記授与式
 同窓会から卒業記念品を贈呈
 卒業生 313名
 学部 266名
 大学院 47名

令和2年度 一般社団法人奈良教育大学 同窓会 竹柏会 一般会計 決算報告
 (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

(歳入の部)

単位:円

款	項	本年度予算額(A)	3月31日現在(B)	比較増減額(A-B)	備 考
会 費	1 通常会費	5,480,000	5,258,151	△221,849	
	卒業時	2,500,000	2,284,151	△215,849	会員 1084名
	入学時	0	0	0	
	2 入会金	2,344,000	2,344,000	0	院生・学生入学時 318名
	入学時	0	0	0	
	3 臨時会費	636,000	630,000	△6,000	院生・学生入学時 315名
		0	0	0	
繰 越 金	前年度繰越金	288,655	288,655	0	
利 子	利子及び雑収入	50,000	117,421	67,421	広告収入 利息
合 計		5,818,655	5,664,227	△154,428	

(歳出の部)

単位:円

款	項	本年度予算額(A)	3月31日現在(B)	比較増減額(A-B)	備 考
事 務 費	1 役員旅費	1,370,000	765,791	604,209	
	2 備品等	800,000	463,300	336,700	理事、正会員等旅費
	3 消耗品費	100,000	13,512	86,488	シュレッダー
	4 通信費	90,000	60,678	29,322	印刷用紙、名刺、宛名シール等
	5 賃借料	130,000	84,457	45,543	切手・はがき・電話料金等
	6 賃借料	150,000	66,344	83,656	コピー機リース料、コピー代
	7 法人化費用	100,000	77,500	22,500	理事変更手続き、税理士費用
会 議 費	1 役員会費	150,000	22,662	127,338	
	2 総会費	50,000	22,662	27,338	理事会・正会員会お茶、卒業式手伝い
事 業 費	1 役員会費	100,000	0	100,000	
	2 総会費	4,250,000	3,458,073	791,927	
	1 会報発行費	2,400,000	2,161,220	238,780	会報「まほろば33号」作成、発行料等
	2 新会員歓迎費	100,000	114,070	△14,070	卒業記念品等
	3 事業活動費①	50,000	0	50,000	
	事業活動費②	120,000	26,400	93,600	まほろば徳・得講座 ちらし印刷
	4 組織活動費	130,000	0	130,000	
	5 事業補助	50,000	0	50,000	
予 備 費	6 記念事業	1,400,000	1,156,383	243,617	贈呈式費用、銘板、コロナ学生支援
	7 事業基金	0	0	0	
予 備 費	予備費	48,655	25,600	23,055	中谷顧問告別式供花等
	予備費	48,655	25,600	23,055	
合 計		5,818,655	4,272,126	1,546,529	

差引現在高 5,664,227-4,272,126=1,392,101円

1,392,101円のうち100万円は下記事業基金として積み立て、残る392,101円は来年度に繰り越します。

事業基金現在高 (令和3年3月31日現在)

南都銀行 (定期)	226,228円	ゆうちょ (定額)	308,000円
南都銀行 (普通)	838,368円	ゆうちょ (普通)	443,875円
合 計		1,816,471円	

令和2年度 特別会計 130周年記念事業基金（クラブハウス建設基金）会計報告 （令和2年4月1日～令和3年3月31日）

（歳入の部）

単位：円

款	項	収入額	備 考
130周年記念事業基金 （クラブハウス建設基金）	会員の部		
	1 一般会員	1,707,000	会員（大学生・学院生）127件
	2 客 員	75,000	会員（客員） 4件
	3 その他	330,000	会員グループ 6件
	法人の部		
	1 団体・企業	185,000	企業法人 4件
	2 その他	0	趣旨賛同者 0件
繰 越 金	前年度繰越金	9,782,451	前年度クラブハウス建設基金
利 子	利 子	38	受取利子として
合 計		12,079,489	

（歳出の部）

単位：円

款	項	収入額	備 考
130周年記念事業基金 （クラブハウス建設基金）	1 寄贈金	10,000,000	令和2年12月20日 国立行政法人奈良教育大学130周年記念事業基金 （クラブハウス建設基金）として寄贈
	2 手数料	36,149	手数料として
合 計		10,036,149	

$$12,079,489円 - 10,036,149円 = 2,043,340円$$

130周年記念事業基金（クラブハウス建設基金）の残高は2,043,340円です。

令和2年度の会計については、一般会計、特別会計の通りであることを報告いたします。

令和3年3月31日

会 計 吉田貴子
会 計 小林邦子
会 計 森本玉枝
会 計 四野宮康子

令和2年度の会計決算報告書を詳細に監査いたしましたところ、一般会計、特別会計共に諸帳簿等は、よく整備され、正確適性に処理されていることを認めます。

令和3年4月5日

監 事 野 阪 雅 美

税務・会計

谷口会計事務所

〒630-8113
奈良市法蓮町941番地の10
TEL 0742-22-3122(代)
FAX 0742-26-7115

西岡税理士事務所

〒633-0053
奈良県桜井市谷382-6
TEL 0744-49-3355
FAX 0744-49-3366

令和3年度 奈良教育大学同窓会竹柏会 活動方針

目 的

奈良教育大学同窓会竹柏会は、会員相互の親睦を図り、教育並びに社会の進展に寄与することを目的とする。また、大学の方針に沿って協力し、大学並びに竹柏会の更なる発展をめざす。

重点目標

- 1 法人としての組織を確立し、会員活動の充実・発展に努める。
- 2 事業委員会の活動と支会活動との連携を図り、竹柏会への理解を深める
- 3 学生会員に向けての活動を拡充する。
- 4 130周年記念事業「クラブハウス建設基金」の、企業等への依頼活動に努める。

令和3年度 奈良教育大学同窓会竹柏会 役員紹介(敬称略)

名 誉 会 長	加藤 久雄	竹柏会委員	山崎 淳美	支 会 長	奈 良 市	山田 義彦	評 議 員	生 駒 郡	稲 浦 聡
顧 問	長 友 恒 人		枝 元 美 哲		天 理 市	村 井 稔正		桜 井	岡 田 泰治
	柳 澤 保 徳		今 井 美 清		大和郡山市	三 村 精一		磯 城 郡	脇 田 正美
	長 田 光 男		宮 前 清 和		山 辺	上 浦 一道			北 川 雅尚
代 表 理 事	西 田 史 朗		大 倉 基 宥		生 駒 市	松 村 恵司			前 川 美幸
	中 川 克 巳		森 杉 美代子		生 駒 郡	宮 前 清和			松 村 宙亨
	吉 田 貴 子		本 田 克 己		桜 井 市	向 出 恵宥			松 岡 清之
理 事	橋 本 清	参 与	福 井 義 博		磯 城 郡	堀 内 義雄		宇 陀 市	向 井 清
	松 本 さおり		竹 中 良 行		宇 陀 市	田 中 三彦			田 中 三彦
	久 保 三左男		宮 本 博 覬		橿 原 市	山 本 秀樹		橿 原	原 田 須加子
	中 村 利 典		今 西 政 弘	支 会 長	高 市 郡	上 西 義次		高 市	中 島 浩一
	小 谷 勝 彦		宿 本 啓		大和高田市	辰 己 恵子		高 市	西 井 良之
	小 井 村 崇 暢		中 尾 勝 一		北葛城郡	増 田 辰夫		高 田	辰 己 恵子
	楠 隆 彦		藤 井 フミ子		香 芝 市	荻 原 雄一		北 葛	福 仲 慎司
	中 室 清 文		松 守 正		葛 城 市			香 芝	森 岡 義博
	香 川 一 実		境 山 正 甫		御 所 市	野 阪 雅美		香 芝	荻 原 雄一
	小 林 邦 子		木 村 隆 吉		五 條 市	梶 本 和雄		葛 城	宅 康次
	森 本 玉 枝		後 藤 田 和 子		内 吉 野	久 保 隆		御 所	野 阪 雅美
	吉 田 誠 之		井 本 英 典		吉 野	小 原 康子	評 議 員		梶 本 和雄
	近 藤 義 之		浦 野 和		高 校	井 上 恵充		五 條	尾 崎 和弘
	四野宮 康 子		門 田 悦 子		大 学	山 本 敏久			蓮 尾 雅人
監 事	中 村 倫 子		岡 島 久 子		大阪市興東会	小 山 勝一		内 吉 野	久 保 隆
	野 阪 雅 美		赤 堀 剛 彦		東 大 阪 市	金 治 延幸		吉 野	小 原 康子
	井 上 三 夫		大 橋 勉		八 尾 市	浦 上 弘明			森 脇 敏彦
名 誉 理 事	松 村 恵 司		深 井 一 憲		京 都 府	久 保 三左男		高 校	井 上 恵充
	北 良 夫		石 増 次 郎		名 張	淵 矢 俊成			石 澤 竜義
	岩 橋 恭 子		岸 田 泰 三	評 議 員	奈 良	西 田 美智子		大 学	金 原 正明
竹 柏 会 委 員	武 村 恵 美		平 井 利 子			阪 東 俊行		大 阪 市	中 谷 和博
	金 治 延 幸		中 村 幸 成			江 村 圭造			木 村 鑑廣
	向 出 佳 司		澤 田 晴 夫		奈 良 東 部	山 口 聡子		東 大 阪	松 川 登志子
	山 田 昇		恒 岡 宗 司			谷 嶋 美智子			植 田 勝
	滝 川 満 夫		大 橋 輝 雄		天 理	阪 部 保		八 尾	加 藤 賢一
	錢 本 三千宏					喜 多 健一		京 都	井 戸 野 仁司
	中 澤 新 治					山 田 恵敏			濱 喜代巳
	豊 田 弘 司				大和郡山市	熨 斗 慎司		三 重	廣 瀬 裕司
	深 岡 展 巧				山 辺	今 本 泰啓			布 村 進
	西 岡 由 郎				生 駒 市	上 西 均			
	林 田 晃 典					出 原 威佐夫			

2022(令和4)年度 同窓会総会のご案内

■と き 令和4年5月15日(日) ■ところ 奈良ホテル
午前10時から



出席希望者は令和4年4月末までに、事務局へ(FAXか電話で)お申し込みください。



近鉄奈良駅前

旗・応援幕・カップ・バッジ

株式会社 野崎商店

代表取締役 野崎尚利
(昭和54年卒)

株式会社 真 興 産
飯 田 住 器 販 売

飯田豊勝 飯田真司

〒630-8261 奈良市北市町63-1
TEL 0742-24-2725 FAX 0742-26-2573

支会だより

「支会の明るい未来をめざして」

天理支会 村井 稔正(S41)

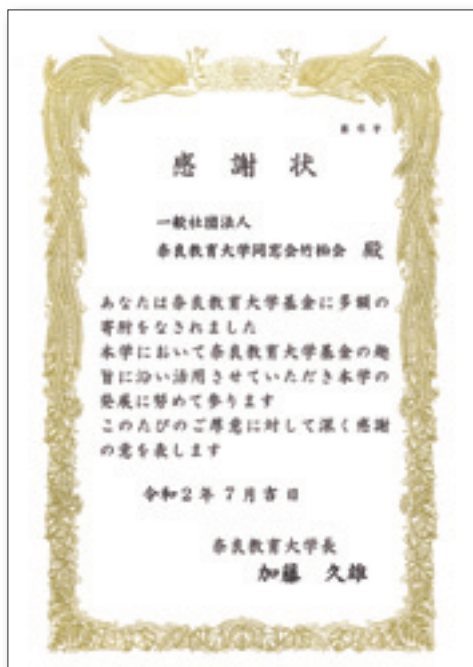
2年前には、会員が少なくなり、支会の解散の話がありました。現在の会員はお互いのつながりも強く、家庭的雰囲気の中で交流しています。そんな中で、今年度から会長を引き受けま

したが、現状では当分集まることもままなりません。

時代の流れでしょうか、新加入は少なく、先の見通しが暗いです。現在の会員は、行事、親睦会には必ず参加していただき、そんな皆さんに支えられ、がんばってやっていきたいと思っています。

先輩諸氏に協力いただき、新会員の加入増と支会の交流と活性化に向けて精進したいと考えています。

コロナ禍で支援を求める学生に援助



コロナ禍の中で、支援を求める学生が増加している現状を受け、大学から同窓会と話し合いたいと連絡があり、令和2年5月15日大学第一会議室において話し合いを行いました。

同窓会からは中川会長と理事4名が、大学側からは渡辺理事以下担当の職員が参加し協議を行いました。

大学からは「コロナ禍の中で学生の生活も大変厳しくなっている現状があり、学生を支援するための基金の募集を開始するので、同窓会にも協力をお願いしたい」と要請がありました。

6月3日の同窓会理事連絡協議会でその旨を報告し、全員一致で30万円を基金に寄付することを決定し、6月17日学長室で加藤久雄学長に手渡しました。

幸いなことに、コロナ禍の影響で退学をしたという学生はいないということです。

7月に同窓会からの基金への寄付行為に対して、大学から感謝状をいただきました。これからも学生や大学との絆を深め、同窓会として意義ある活動が続けていきたいと思います。会員の皆様のご支援ご協力をお願い致します。

奈良墨 喜壽園
以文齋 中国古玩

〒630-8248 奈良市西新在家町 12 TEL:0742-22-4172

ReFuz(レジューズ)キャラクター
ともーる

同窓会幹事代行
『ReFuz』

株式会社 サラト

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL 079-284-1380 FAX 079-284-0904



大和ハウス工業



Daiwa Lease
大和ハウスグループ

大和リース

同窓会創設130周年記念事業 「クラブハウス建設基金」中間報告

これまでの経過

① 基金の立ち上げについて

令和元年8月31日「130周年記念事業実行委員会準備会」に27名参加。10月5日「第1回実行委員会」を開催し、クラブハウス建設基金の募集を決定。

令和2年1月15日「クラブハウス建設基金趣意書」を全会員に送付。同年3月末で、会員893名、趣旨賛同者・企業等3件の基金への協力があった。(9,782,451円)

令和2年8月30日「会報まほろば33号」を発行し、協力いただいた方のご芳名を記載すると共に、再度の協力依頼を行った。

並行して県内の各企業等にも協力依頼に回る予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響で、予定していたような訪問をすることができなかった。

令和3年3月末現在での振り込み総数は、会員1024名、趣旨賛同者・企業等13件となっている。(12,079,489円)



クラブハウス建設基金趣意書

② 建設計画について

当初同窓会としては、老朽化した現在のクラブハウスを撤去した跡地に、奈良県産の木材も使用して建て替えることを目標にしていた。多くの会員から基金への協力を得たものの、大口の企業等への協力依頼はコロナ禍もあって困難を極め、同窓会単独で建設することが難しい現状となった。

そこで、大学当局と「同窓会員の熱い思い」を前面に出しながら、「何とかクラブハウスを」と、話し合いを重ねた。その結果、大学当局より、同窓会の思いを組み入れたクラブハウスの建設計画が示された。

それは、「大学研究棟の老朽化に伴う建て替え工事」の一環として、同窓会の基金も活用した新たな研究棟を建設し、その一部に「課外活動共用室(仮称)」を設けるというものであった。当面は、2部屋の課外活動共用室であるが、今後10年程度かけて改築し、最終的には40室程度のクラブハウス棟として整備するというものである。



研究棟完成予想図



課外活動共用室(仮称)室内イメージ図

この案について、理事会としても検討を重ねた結果、令和2年10月31日開催の正会員総会に諮ることにし、承認を得た。

総会でも、「学生の意見の反映を」という意見をいただいているので、学生支援課とさらに連携を図りながら、学生会員とも話し合っていきたい。

③ 基金贈呈式について

基金が1,000万円に達した事を機に、令和2年12月20日「クラブハウス建設基金贈呈式」を行った。式典では、中川克巳同窓会代表理事が基金と銘板の目録を加藤久雄学長に手渡した。

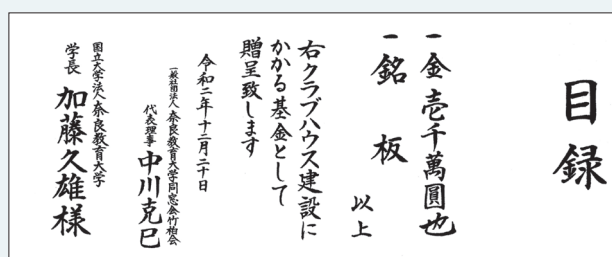
また、学生代表の方から、「いただいた基金で建てられるクラブハウスのおかげで活動の幅が大きく広がります。感謝申しあげます」とお礼の言葉があった。



中川代表理事、学長及び学生代表者

④ 今後について

「クラブハウス建設基金の募集」については、令和4年3月末で終了する。残された期間の中で、同窓会員への再度のお願いをするとともに、可能な限り企業・賛同者への働きかけを行う。課外活動共用室(仮称)を含む研究棟については、令和4年1月末に完成予定であり、壁面には「銘板」が取り付けられる。また、コロナ禍の収束状況を見ながら、学生会員との話し合いを持ち、今後の整備計画を考えていきたい。



クラブハウス建設基金ご協力いただいた方のご芳名

(令和2年7月26日～令和3年7月26日までに
ご寄贈いただいた方、順不同、敬称略)

法人・企業	S31年卒	S42年卒	S50年卒	S61年卒
西岡税理士事務所	高倉 規作	西井 良之	増田 辰夫	藤元 貴英
有限会社瓦善	S32年卒	塚本 真人	S51年卒	S62年卒
野崎商店	松川 滉	S43年卒	富永 智子	前 浩輔
(株)真興産	S33年卒	奥西 尚子	米田 猛	米田 定世
谷口会計事務所	寺岡 富子	大野 明	S52年卒	曾田 玲子
喜壽園	S34年卒	大橋 勉	中村 倫子	H元年卒
(株)サラト	宮本 博覬	赤堀 剛彦	S53年卒	吉田 房代
(株)大和ハウス工業	S35年卒	西峯 典子	苦瓜 和代	H5年卒
大和リース(株)	野阪 雅美	S45年卒	松川登志子	高橋 英和
帯解寺	S36年卒	黒田 洋	S54年卒	川端千香子
やまと蜂蜜	本庄 朱實	松浦 陽子	大橋 弥生	H8年卒
大島商会	山崎美耶子	岸田 泰三	S55年卒	稲垣 慶典
奈良ホテル	S37年卒	S46年卒	中澤 新治	H14年卒
スバル自動車	辰己 恵子	赤沢 重代	S56年卒	中嶋 敦雄
関西印刷	S38年卒	金澤 博美	濱 喜代巳	R2年卒
客員	猪原 洋一	空本よう子	西沢美智子	小島 朋也
外山 和延	三住 誓成	爲重 久雄	S57年卒	ありんこの会同窓生
中島 剛	S39年卒	S48年卒	植田 勝	(S45)
S25年卒	宮本 雅代	山下 豊次	日比野 功	東大阪支会
阪根 知子	鎌田 義道	向出 佳司	染井真由美	
S28年卒	横山 英子	S49年卒	S58年卒	
松村 恵司	S41年卒	日向由紀洋	近藤 栄一	
S30年卒	平井 佳子	尾崎万佐子	井上 令子	
北 良夫		落合 敏之	S60年卒	
		川田 勝紀	橋爪 浩嗣	

多くの方々からのご厚志に心から感謝申しあげます。

なお、一万円以上ご協力いただいた方のご芳名は、銘板に記載させていただきますので、ご芳名の誤字等がございましたら、同窓会事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

(同窓会事務局 TEL: 0742-21-6101、FAX: 0742-21-6102)

今後ご協力いただける方は、下記の口座番号にお振り込みください。

(事務局にご連絡頂ければ、振込用紙を郵送させていただきます)

〇ゆうちょ銀行 【口座記号番号】 00930-1-238232

【振込先】 一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会

・郵便番号 ・自宅住所 ・電話番号 ・卒業年(S・H・R年) ・ご芳名

同窓会だより

『巳野欣一著作集』を刊行しました

米田 猛(S57)



巳野欣一先生(1925-2017)は、昭和23年、本学の前身である奈良師範学校をご卒業後、奈良教育大学附属中学校(昭和27~59年)をはじめとする54年間の教職生活を過ごされ、国語科教育実践者・研究者として多くのご業績を残

されました。会員の皆様の中には、教育実習をはじめ、県内外の研究会等でご指導を受けられた方も多くと存じます。

この度、先生の実践・研究論文を集成した『巳野欣一著作集』を刊行、上巻(661ページ)は「国語科表現指導論」、下巻(930ページ)は「国語科理解指導論」「国語科言語指導論」「国語科授業論」を収めました。

また、補遺(180ページ)には、上下巻に収められ

なかった、巳野先生ご自身の実践・研究史や随想・書評などを収めました。

先生の実践・研究は、「関連文献のあくなきまでの渉獵」と「理よりも実を取る徹底した実証主義」とに集約されます。前者は、教材研究や授業実践の緻密さとして具現化され、後者は、学習者から出発する国語科教育学の理論化に昇華しました。

本書は、実践と理論との往還による「国語科教育の実践理論」の探究とともに、授業の具体例や授業実践の様々なアイデアにあふれ、すぐにでも、ご自分の授業や教室に取り入れることが可能な論考ばかりです。

同窓会の皆様、また皆様のお知り合いの先生方には是非ともお読みいただきたく、特に将来の教育を担う若い先生方には、間違いなく得ることの多い書籍と存じ、ここにご案内申し上げます。

個人の購入だけでなく、学校や研究団体・研究機関等でのご購入も承りますので、入手方法、価格等のご遠慮なく下記にお問い合わせください。

【本書に関するお問い合わせ】

奈良教育大学国語教育講座

米田 猛(こめだ たけし)電話 0742-27-9207

メール komeda.takeshi.re@cc.nara-edu.ac.jp

令和3年度の研修について

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、終息が見通せない状況です。本年度も「一日親

睦研修会」と「まほろば徳・得講座」の中止を余儀なくされました。会員の皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

宮内庁安産岩田帯献納

帯解子安地蔵 帯解寺

〒630-8444 奈良市今市町734

電話 0742-61-3861

あらゆる防災機器・消防設備の維持
保守点検のご用命は

総合防災設備
株式会社 大島商会

本店 奈良市法蓮立花町273-3
TEL 0742-22-4028
FAX 0742-24-0630

営業所 奈良市芝辻町2丁目9-10
TEL 0742-33-4028
FAX 0742-33-5119

奈良県知事許可 第016328号
瓦善 有限会社 瓦善
代表 奥野 善友

〒636-0914

奈良県生駒郡平群町西宮2-2-53

0120-73-4445

大阪府知事許可 第092425号

嶋川建設株式会社

代表 嶋川 忠一

〒536-0021 大阪府大阪市城東区諏訪1-15-18

☎06-6962-3709

砂糖に代わる
天然甘味料
家族の健康を考えた
てんてきの糖
竹末と蜂蜜
TEL 0120-630-868

SUBARU
奈良スバル自動車株式会社

奈良教育大学と 奈良女子大学との 法人統合について

令和4年4月1日に「国立大学法人奈良国立大学機構」が設立され、両大学が法人統合されます。2つの大学が1つになるのではなく、奈良教育大学も奈良女子大学も存続します。

法人統合でどうなるのか、Q&Aでお伝えします。

【資料提供 奈良教育大学企画連携課】

Q1「学生の身分はどうなりますか？」

今まで通り、それぞれの大学名を名乗ることになります。奈良教育大学に入学した学生は、奈良教育大学の学生となり、入学試験もそれぞれの大学において実施されます。卒業証書の大学名も「奈良教育大学」と記載され、変わりません。

Q2「同窓会はどうなりますか？」

同窓会も、それぞれに存続し、奈良教育大学は「一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会」として継続します。現在の、正会員・一般会員・学生会員の構成も変わらず、更なる発展をめざします。

奈良女子大学同窓会は、「一般社団法人佐保会」として活発に活動されています。

Q3「法人統合による学生のメリットは？」

奈良女子大学で開講される教養科目（文学部・生活環境部・理学部・令和4年新設予定の工学部）を受講できるようになります。（一部を除く）

また、図書館など相互の施設・設備の利用、充実した就職支援、両大学生の交流の活発化など、双方の大学のメリットを享受できるようになります。

なお、法人統合によるキャンパス移転の予定はありません。

Q4「クラブ・サークル活動は？」

今まで通り、それぞれの大学で活動が実施されますが、奈良女子大学と共にクラブ・サークルを立ち上げるなど、可能性が広がることも期待されます。

Q5「奈良カレッジズとは？」

両大学の法人統合を核として、奈良県及び地域の国立の教育・研究機関、企業等（奈良先端科学技術大学院大学、奈良工業高等専門学校、奈良国立博物館、奈良文化財研究所、関西文化学術研究都市 等）を加えた新たな統合化のことでです。

両大学や奈良カレッジズの諸機関等の知見や人的資源を活かした「奈良カレッジズ学問祭（仮称）」の実施が予定されています。

奈良教育大学

明治7（1874）年に誕生した教員伝習所「寧楽書院」を起源に、前身となる奈良県尋常師範学校が明治21（1888）年に創設。平成30年に創立130年を迎え、創立以来奈良における教員養成を担ってきた。

◆学部 教育学部 ◆大学院 教育学研究科



奈良女子大学

明治41（1908）年に設置された奈良女子高等師範学校が前身。令和元年5月に創立110年を迎え、創立以来日本における女子高等教育を担ってきた。

◆学部 文学部、理学部、生活環境部
◆大学院 人間文化総合科学研究科



造園 緑化 土木



株式会社 みどり園

本社

〒547-0012 大阪市平野区長吉六反5丁目9-31
TEL (06) 6799-1155 FAX (06) 6799-1172

支店

〒581-0864 八尾市山畑145番地
TEL (072) 941-8203 FAX (072) 941-0339

明治の時代より受け継がれた伝統と
いつの時代も変わらぬおもてなし



奈良ホテル

〒630-8301 奈良市高畑町 1096
TEL. 0742-26-3300（代表）<https://narahotel.co.jp>

KANSAI PRINTING INC.

関西印刷株式会社

〒630-8281 奈良市南半田中町19・20番地
TEL (0742) 26-2431 FAX (0742) 23-7304
E-mail kansaipt@skyblue.ocn.ne.jp

学生会員からのたより

社会科教育専修4回生 ギターマンドリンクラブ 北 将伍

「コロナ禍」の世になって早1年半が経とうとしています。4回生の私は授業も少なくなり、卒業論文作成と試験勉強に励む日々です。一時は減ってしまった学友との関わり等は、オンラインに慣れたり、コロナ禍での楽しみ方を見つけたりと少しずつ違うものになりながら戻ってきたように思います。6月末現在は対面授業や課外活動が一部許可され、構内にもぼちぼち活気が見られてきました。

その課外活動で私はギターマンドリンクラブに所属し、昨年度は部長、今年度は正指揮者として活動しています。コロナ禍になってからは本来あったはずの演奏会を5回近く失い、人前で演奏する機会がずっとありませんでした。この厳しい状況の中でも新1・2年生が9人も入部し、当部のこれからの発展に希望を抱

いています。今年は12月4日(土)に当部OB・OGとの合同で第55回定期演奏会(なら100年会館)を行います。観客の有無など現在未定ですが、可能であれば多くの先輩方にお越しいただき、久々の舞台をご覧いただきたく存じます。どうぞご最属ください。

当部ではコロナ禍前の活動として、同窓会主催の「教育の集い」にて先輩方の前で演奏を披露させていただきました。『さくらさくら』等を演奏し、学歌では一緒に合唱いただきとても楽しい時間になりました。また、私は代表でクラブハウス建設基金贈呈式に参列させていただきました。クラブハウスは非常に老朽化が進んでおり、寄り付きがたい雰囲気建物と化していましたが、建て直そうと篤くご協力くださったことに心から感謝申し上げます。完成予想図を見て、後輩たちが活動に邁進する姿が目に見え、とても楽しみになりました。私も卒業後ぜひ見学に行きたいものです。

大学生活がもうすぐ終わります。コロナ禍で制限されたと考えるのではなく、コロナ禍だからこそ十分に学び尽くせたと思うように、残りの勉強も課外活動も突き進む所存です。

キャンパスだより

入学生はどの府県から？(R2年度)

(卒業高校所在地で調査)

1 大阪府	78名	7 徳島	5名
2 奈良県	75名	9 東京都	3名
3 京都府	24名	静岡県	3名
4 兵庫県	21名		
5 愛知県	11名		
6 滋賀県	8名		
7 三重県	5名		



卒業生の進路は？(令和2年3月卒業終了者)

*資料：2020年大学概要

教員	幼稚園	8名	企業	51名
	小学校	62名	大学院等進学	22名
	中学校	31名	保育士等	4名
	高等学校	7名	未就職者	26名
	特別支援学校	9名		
	期限付採用	75名		
	公務員	16名		
				【合計311名】

事務局だより

◎令和3年3月25日卒業・修了された全員の皆様に、同窓会から卒記念品として証書を保管する筒と紙袋を贈呈することができました。

◎まほろば34号は、全会員に発送しています。住所変更等ありましたら事務局までご連絡ください。

◎同窓会は皆様の会費で活動しています。会費の納入にご協力ください。

◎個人情報の保護には、万全を期しています。

編集後記

人と細菌との戦いの間隙を縫って、同窓会は「まほろば」編集会議を重ねて参りました。キャンパスでは、コロナを禍とせず、可能な方法や新しい道をさがし、創意工夫しながら、学生が澁澂と若枝を伸ばしています。

そんな健気な彼らに、同窓会は創設130周年記念事業として老朽化甚だしいクラブハウスを新しくし明るく心安まる場所を提供したいと、クラブハウス建設基金募集を立ち上げ呼びかけたところ、多数の皆様にお応えいただき、沢山のご支援を賜りました。本誌にも企業各位から広告をいただきました。ご厚情に深く感謝申し上げます。

ご厚志が1000万円に達した昨年末、中間贈呈式を催行し大学に贈呈しましたが、当面、令和4年3月31日まで引き続きご寄付を募って参ります。未だこの呼びかけがお耳に届いていなかった同窓会諸兄姉には、何卒温かいご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

原稿募集

- 会報35号の原稿を募集します。
- 500字程度で、顔写真等もお願いします。
- 送付先：同窓会事務局広報委員会 宛



一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会会報「まほろば」 第34号 発行：令和3年8月30日

発行所 一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会事務局 〒630-8301 奈良市高畑町 奈良教育大学内
☎0742-21-6101 Fax0742-21-6102 郵便振替番号00900-2-9400

編集・発行 一般社団法人奈良教育大学同窓会竹柏会

印刷所 関西印刷株式会社 奈良市南半田中町19・20番地

—題字 故 川淵勝男元会長—